

音楽に積極的にいかわり、生き生きと表現する児童をめざして
～小学校での発達段階に応じた歌唱指導を通して～

1 設定理由

小学校6年間の学習を見通した上で、発達段階に応じた指導をすることは、すべての教育活動において必要なことであり、音楽の学習(歌唱指導)においても大変重要なことである。

そこで本研究では、6年生の最後を締めくくる卒業式で、美しく感動的な卒業式歌を歌い「やっぱり歌っていいな、素晴らしいな」という気持ちで卒業できるようにするために、また学習したことが、これからの自分の生活の中で生きてくると言う実感が持てるような発達段階に応じた歌唱指導はどのように進めていったらよいかと考え、本主題を設定した。

2 研究仮説

【仮説1】低・中・高学年と発達段階に応じた歌唱指導の工夫をすれば、歌うことの楽しさがわかり、生き生きと歌唱表現にとりくむことができるであろう。

【仮説2】音楽科の授業で学習したことを発表する場(まちづくり事業等)を設定すれば、意欲や表現力が高まり、生き生きと歌唱表現にとりくむことができるであろう。

3 研究内容

【仮説1】発達段階に応じた歌唱指導の工夫を取り入れた授業実践

第1学年 歌詞に合う身体表現の工夫 「はる なつ あき ふゆ」

第3学年 曲想にふさわしい歌い方の工夫 「ふじ山」

第5学年 曲の特徴を生かした表現の工夫 「いつでもあの海は」

【仮説2】総合的な学習の時間(まちづくり事業等)との関連を生かした音楽活動の工夫とその実践

〈まちづくり事業へのとりくみ〉

- ・老人介護施設への慰問 ————— 音楽劇「海の命」の上演
- ・幼稚園・保育所との交流 ————— 音楽劇「ごんぎつね」の上演
- ・勝浦魅力市での演奏 ————— ディズニー映画「アラジン」の演奏
- ・灯台100周年記念行事 ————— 2部合唱「灯台守」「いつでもあの海は」「ふるさと」の演奏

4 結論

○低・中・高学年と発達段階に応じた歌唱指導の工夫を取り入れた授業実践を行うことにより、児童の歌声が地声からきれいな響きのある歌声へと変化した。更に旋律の重なり方や歌詞の内容、曲の特徴を生かした表現の工夫を考え、生き生きと歌唱表現ができるようになった。

○総合的な学習との関連を生かした音楽活動の工夫とその実践(老人介護施設への慰問や幼稚園・保育所での音楽劇の上演、市記念行事への参加)を行うことにより、たくさんの方々に喜んでいただき合唱表現の意欲が高まり、生き生きと歌唱表現ができるようになった。

研究主題

音楽に積極的にかかわり、生き生きと表現する児童をめざして
～小学校での発達段階に応じた歌唱指導を通して～

1 主題設定の理由

小学校6年間の学習を見通した上で、発達段階に応じた指導を図るようにすることは、すべての教育活動において必要なことであり、音楽の学習(歌唱指導)においても大変重要なことである。

高学年になると、思春期の特徴として、自分の思いを歌などで表現することに恥ずかしさを感じてしまったり、技能面で自信をなくしてしまったり、消極的な姿勢が見られるようになってしまうことが多い。

音楽の指導における教職員の悩みのアンケート【資料1】からも、音楽の授業の中で1番指導に自信がない領域が歌唱指導であるようだ。その理由として、低学年では、きかない声(怒鳴り声)になってしまう。音がとれない児童の指導はどうしたらよいか。中学年では、響きのあるきれいな声をつくるためにはどうしたらよいか。2部合唱の指導をどうしたらよいか。高学年では、意欲的に歌うにはどうしたらよいか。卒業式に向けて、歌ってほしいのだが、音楽は大嫌いと答える男子児童が多い。どうしたら興味を持たせることができるかなど、歌唱指導に対してたくさんの悩みを抱えているようだ。

そこで、本研究では、6年生の最後を締めくくる卒業式で美しく、感動的な卒業式歌を歌い「やっぱり歌っていいな、素晴らしいな」という気持ちで卒業するために、そして、生涯を通して音楽を愛好する心情を育てるために、低・中・高学年の歌唱指導はどのように進めていったらよいかと考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

児童が生き生きと表現活動にとりくむためには、どのような歌唱指導の工夫をしていけばよいか、授業実践や総合的な学習の時間との関連を生かした音楽活動を通して明らかにしていく。

3 研究仮説

仮説1 低・中・高学年と発達段階に応じた指導の工夫をすれば、歌うことの楽しさがわかり、生き生きと歌唱表現にとりくむことができるであろう。

仮説2 音楽科の授業で学習したことを発表する場(まちづくり事業等)を設定すれば、意欲や表現力が高まり、生き生きと歌唱表現にとりくむことができるであろう。

〈仮説1について〉

低・中・高学年を見通した発達段階に応じた指導をするために、各学年の目標や目標を達成するための手立てを明確にし、児童が主体的に学習にとりくめるような工夫を凝らした授業を行うことにより、歌うことの楽しさを感じ、生き生きと歌唱表現にとりくむことができるであろうと考える。

また、全校体制で取り組む今月の歌の児童による教え合いを通して、美しい歌声に興味を持ち、自主的・主体的に歌唱表現にとりくもうとする意欲が高まらるであろうと考える。

〈仮説2について〉

本校の教育目標は「郷土を愛し、健康で確かな学力と豊かな心を身につけた、たくましい児童の育成」である。積極的にまちづくり事業に参加し、ふるさと（勝浦）を愛する気持ちを育てている。そこで、音楽科と総合的な学習の時間との関連を生かし、音楽を通しまちづくり事業に参加することにより、目的意識が高まり、児童は積極的に生き生きと音楽活動にとりくむことができるのではないかと考える。

また、高学年の児童は、低・中学年で培ってきた歌唱表現を生かし、学年やクラスのみんなと心を合わせ、合唱をつくりあげること（合唱表現の工夫）で意欲や表現力が更に高まらるだろうと考える。

4 研究内容

【仮説1】

（1）発達段階に応じた歌唱指導の工夫を取り入れた授業実践

- 第1学年 歌詞に合う身体表現の工夫 「はる なつ あき ふゆ」
- 第3学年 曲想にふさわしい歌い方の工夫 「ふじ山」
- 第5学年 曲の特徴を生かした表現の工夫 「いつでもあの海は」

（2）今月の歌の指導（高学年児童が低学年児童へ）

【仮説2】

（3）総合的な学習の時間との関連を生かした音楽活動の工夫とその実践

（まちづくり事業へのとりくみ）

- ・老人介護施設への慰問 ————— 音楽劇「海の命」の上演（6年）
- ・幼稚園・保育所との交流 ————— 音楽劇「ごんぎつね」の上演（5年）
- ・灯台100周年記念行事への出演 —— 2部合唱
「いつでもあの海は」「灯台守」「ふるさと」（5年）

5 研究の実際

【仮説1】

（1）発達段階に応じた指導の工夫を取り入れた授業実践

低学年の指導

《目標》

○友だちの声を聴いて、自分の声を合わせていく。

低学年に多い、怒鳴り声や、音の高さが合っていない歌は聴き苦しいし、声帯にも良くない。自分の歌う声をみんなに合わせることによって、歌うことの楽しさをわからせること。そのための基礎を作ることが大切であると考えた。

- ・第1学年 斉唱で歌うことになれる。（声の出し方に関心を持つ）
- ・第2学年 互いの声を聴き合うことになれる。輪唱の感じをつかませる。

（2声に分かれる＝オスティナート、カノン）

《手立て》

①地声を歌声へ

- ・歌声でなければどうしても歌えない高さの曲を選ぶ。(今月の歌)
- ・「大きな声で」「元気よく」ではなく、「やさしく」「お兄さんや、お姉さんになって」など。
- ・男の子の声をきれいに合わせる。

②姿勢を正す。

- ・立つ 「ヒップアップ・ほっぺアップ・眉アップ」
- ・座る 「チョコ・ペタ・ピン」

③視線を集める。

- ・注意力・集中力を養う。

④耳を集める。

- ・自分の声を聴き、更に友だちの声も聴く。

⑤からだを使う。

- ・からだを使って音楽表現をする。(リズムやフレーズを感じる。)
- 「からだで歌おうよ。」「からだ全体で表現しようよ。」「おなかから出そう。」
- ♪第1学年 「しろくまのジェンカ」「はる なつ あき ふゆ」
- ♪第2学年 「ドレミのうた」「海と おひさま」

授業実践

第1学年 「はる なつ あき ふゆ」 【資料2】

本時の指導(5/6時)

(1) 目標

- ・歌詞の表す様子や気持ちに合う表現の仕方を工夫し、表情豊かに歌う。

【音楽表現の技能】

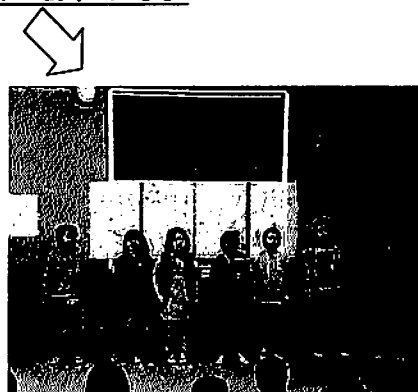
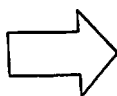
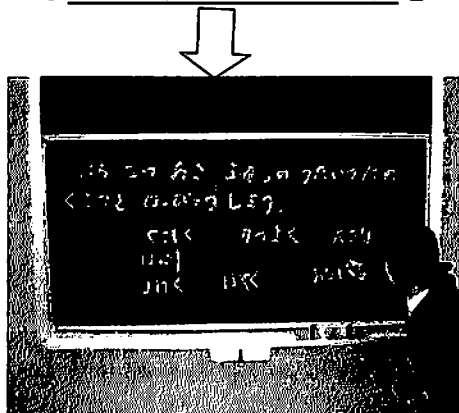
(2) 本時の重点

1番から4番までの歌詞の内容の違いや、旋律の特徴を生かした歌い方の工夫をして、表情豊かに自分の思いを持って歌わせたい。

本時では4つのグループの歌を聴き合うことにより、お互いのグループの表現の工夫を聴き取らせたい。そして、それぞれの良さを取り入れ、曲全体に生かしていきたい。そこで、次の2つの手立てを講じる。

○ワークシートや拡大歌詞に記入した歌い方の工夫を発表し、お互いの歌を聴き合い、表現の工夫を聴き取らせる。

○4つのグループでの工夫を生かし、全体で歌い合わせる。



中学年の指導

＜目標＞

○響きをつくることに慣れ、旋律の表情を感じ取って、表現する。

中学年は、声の「分岐点」である。美しい歌声をつくっていくための一番大切な時期であると思う。合唱の基本は『美しい斉唱にある。』と言われる。

なぜ「分岐点」になるのか。1つめは、低学年に比べ、心身の発達に伴って、表現力も豊かになり、美しさに対する思いも持てるようになってきている。(身体表現していくことだけに満足しなくなっている。) それぞれの曲想にあった歌い方を求め始める時期でもある。2つめは、体の成長に伴い、幼児期の声帯から児童期の声帯になり、声の出しにくい音域が出てくる。今までのように歌うと「高い音のある歌は声が出しにくいから嫌だ。」という気持ちを持ってしまうこともある。「歌う事って楽しい。」という思いを持ち続けながら、美しい歌声を無理なく求められる学習を進めていきたい。

・第3学年 響きをつくることに慣れる。(斉唱を美しく歌おう)

・第4学年 様々な2声の響きに慣れ、旋律の表情を感じ取って歌う。

(パートナーソング、輪唱、部分2部合唱)

＜手立て＞

①音楽に対する様々な感覚を養う。

・旋律感、フレーズ感、音程感、リズム感、強弱感、拍子感、速度感など。

♪第3学年 「ふじ山」

♪第4学年 「とんび」 「ゆかいに歩けば」

②楽譜を理解する。

・楽しく読譜に親しませる。(クイズ形式など)

③斉唱から合唱へ

・旋律を美しく歌う。(歌い方の工夫 高音の響かせ方)

・輪唱を楽しむ。

・合唱への導入(部分2部合唱)

♪第3学年 「ふじ山」

♪第4学年 「パレード ホッホー」 「もみじ」

授業実践

第3学年 「ふじ山」 【資料3】

本時の指導(9/9時)

(1) 目標

・旋律の音の上がり下がりにつけて曲の山を感じながら、曲想にふさわしい歌い方で歌う。 【音楽表現の技能】

(2) 本時の重点

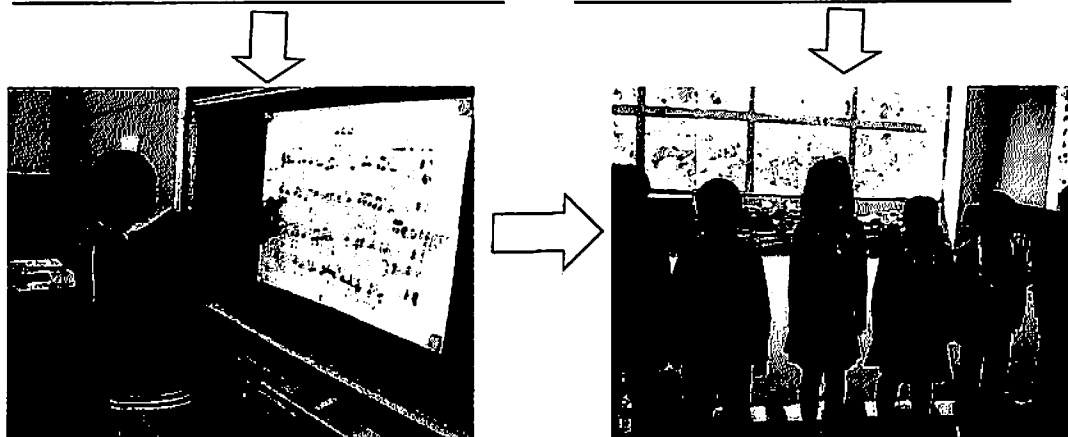
1番と2番の歌詞の内容の違いや、高音の響かせ方の工夫や旋律の特徴を生かした歌い方の工夫をして、表情豊かに自分の思いをもって歌わせたい。

本時ではグループの歌を聴き合うことにより、お互いのグループの表現の工夫を聴き取らせたい。そして、それぞれの良さを取り入れ、曲全体に生かしていきたい。

そこで、次の2つの手立てを講じる。

○ワークシートや拡大譜に記入した歌唱表現の工夫を発表し、お互いの歌唱を聴き合い、

表現の工夫を聴き取らせる。
 ○お互いのグループの表現の良さを聴き合い、全体の歌唱表現に生かすようにする。



高学年の指導

《目標》

○音楽活動（合唱）の喜びを得る。～歌っていいな。すばらしいな。～

低・中学年で、自分の声をみんなに合わせ、美しい声（頭声的な発声）で歌うことの楽しさを知った高学年の子どもたちは、学年やクラスのみんなと心を合わせ、合唱をつくりあげること（合唱表現の工夫）で意欲や表現力を高めていきたい。

・第5学年 みんなと気持ちを合わせ合唱をつくりあげる。

（子どもたちによるパート練習）

・第6学年 いろいろな場面で発表し、合唱の喜びを得る。（発表の場）

《手立て》

①目的意識を持たせる。

・発表の場を設定する。（聴いてくださる方の心に響く合唱）

②指揮について

・出だし、プレス、強弱、表現したい気持ちを伝える。

・図形、表情、目で。

③伴奏（音取り）について

・CDの活用、児童による伴奏（音取り）、単音で。

④変声期の児童の指導（歌うことが嫌いにならないように。）

・男子の場合 1オクターブ下で。ファルセットで。

・女子の場合 男子ほどはっきりとではないが、声の響きがなくなる。

♪第5学年 「いつでもあの海は」「すてきな一歩」「冬げしき」

♪第6学年 「ふるさと」「海のいのち」「W i s h ～夢をのせて」

授業実践

第5学年 「いつでもあの海は」 【資料4】

本時の指導（5／8時）

（1）目標

・旋律の重なり方や歌詞の内容・楽曲の特徴を生かして二部合唱することができる。

【音楽表現の技能】

(2) 本時の重点

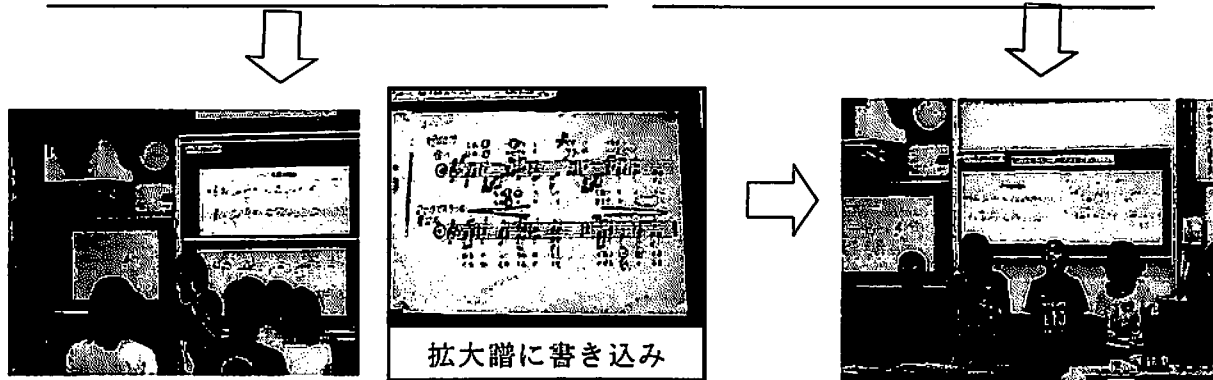
1番と2番の歌詞の内容の違いや、ア、イ、ウの旋律の重なり方の特徴を生かした歌い方の工夫をして、表情豊かに自分の思いをもって歌わせたい。

本時では2つのグループの合唱を聴き合うことにより、お互いのグループの表現の工夫を聴き取らせたい。そして、それぞれの良さを取り入れ、全体の合唱に生かしていきたい。

そこで、次の2つの手立てを講じる。

○ワークシートや拡大譜に記入した合唱表現の工夫を発表し、お互いの合唱（表現の工夫）を聴き取らせる。

○お互いのグループの表現の良さを聴き合い、全体の合唱表現に生かすようにする。



(2) 児童による今月の歌の指導

本校では、毎週水曜日の朝自習の時間に、5年生が低学年（1～3年生）に今月の歌を教えに行っている。5年生にとっては、高学年になったという自覚を持たせる良い機会となっている。また、低学年の児童にとっては、お兄さんやお姉さんのようなきれいな歌声で歌おうという意識づけになっている。4月当初、地声で元気よく歌っていた1年生も2学期が終わる頃には、きれいな歌声を意識して歌うようになってくる。

また、今月の歌は、季節の歌や地声では歌えない音域の歌を選択するようにしている。そして、学校行事などで、全校合唱として歌っている。【資料5】

〔今月の歌の指導 ～5年生が低学年へ～〕



【仮説 2】

(3) 総合的な学習との関連を生かした音楽活動の工夫とその実践

～ 日々の学習で培った表現力を、音楽室から拡げる。～

地域の方々に拡げる

①平成27年度まちづくり事業 (老人ホームへの慰問)

『音楽で笑顔伝え隊』として、「音楽で勝浦を笑顔いっぱいの元気な町にしよう」と、老人ホーム（やすらぎの郷）へ6年生が慰問に伺い、音楽劇「海のいのち」を上演した。

「海のいのち」は、主人公である太一が、父や祖父の漁師としての生き方から、海の自然を大切にすることを学び成長していく話であり、児童は国語の授業で学びとても感動を得た教材である。おじいさんやおばあさん方に喜んでいただきたいと総合や音楽の時間を使い、練習に取り組んだ。

涙を流しながら、聴いてくださったお年寄りを見て、子どもたちの方が感動させていた。

【資料 6】

〔音楽劇「海のいのち」 ～老人ホーム慰問～〕



②平成28年度まちづくり事業 (幼稚園・保育所児童との交流)

『Happy Music 届けたい』として、「ひびく歌声、かがやく笑顔」をテーマに、5年生が、幼稚園や保育所に伺い、音楽劇「ごんぎつね」を上演した。

「ごんぎつね」は、児童が昨年、4年生の国語で学習し、とても感動を得た教材である。総合や音楽の時間を使い、みんなで力を合わせ作りあげていった。

幼稚園や保育所では、音楽劇「ごんぎつね」を上演した後、園児達と一緒に手遊び歌を歌ったり、外遊びをしたり、お部屋で、粘土・お絵かき・かみしばい・折り紙などいろいろな遊びをした。園児達に喜んでいただき、仲良しになった。来年は、児童が6年生として1年生のお世話をすることになる。入学してくるのがとても楽しみ、やさしくめんどろを見てあげたいという気持ちになった。

【資料 6】

〔音楽劇「ごんぎつね」 ～幼稚園・保育所～〕



③平成28年度まちづくり行事 (勝浦魅力市・灯台100周年記念行事・SL出発式での演奏)

本校の音楽部は『歌える金管バンド』をめざして活動している。楽器を演奏するにも呼吸法・歌い方（フレージング）すべて歌唱が基本になる。演奏の中に積極的に歌唱も取り入れ、表現している。

昨年は、ディズニー映画「アラジン」の世界を音と合唱・演技で表現した。演奏の中に「ホールニューワールド」の合唱を入れることにより、演奏表現の幅が広がった。

市内音楽発表会や郡市音楽発表会、千葉県音楽フェスティバルで発表することができた。

また、市の行事（勝浦魅力市）でも演奏し、市民の方々やたくさんの観光客の方々に喜んでいただくことができた。

そして、昨年3月には、勝浦灯台100周年記念行事に招かれ、5年生が「いつでもあの海は」「灯台守」「ふるさと」の2部合唱を披露した。郷土を愛する気持ちが更に高まった。

【資料6】

〔勝浦魅力市「アラジン」〕



〔エルクンパンチェロ〕



〔灯台100周年記念式典〕

2部合唱「灯台守」「ふるさと」



〔SL出発式〕

金管合奏「ファンファーレ他」



全校児童・保護者へ拡げる

【校内行事 若潮祭での発表】

本校では、毎年11月に保護者を招き、学習発表会〈若潮祭〉を開催している。内容は各学年の発表・全体合唱・音楽部の発表である。

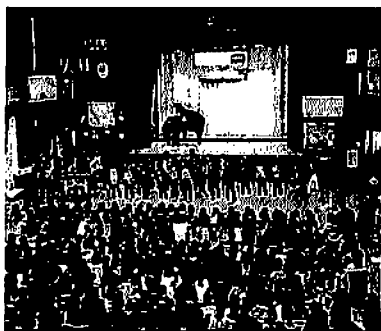
各学年の発表内容は、低学年では、身体表現を取り入れた歌や合奏、中学年では、音楽づくりを取り入れた歌や合奏、群読、高学年では、2部合唱や音楽劇などである。

全体合唱では、今月の歌の中から選択し、低学年が旋律パート、高学年が対旋律パートを歌い2部合唱をする。そして、最後に音楽部の伴奏で、会場全員で「ふるさと」を合唱する。

低学年の児童は、高学年の児童の合唱を聴き、「あんなきれいな声で合唱したいなあ。」と憧れをいっていた。

【資料6】

〔若潮祭 ～各学年の発表～〕



〔若潮祭～音楽部の発表～〕



6. 研究のまとめ（成果と課題）

仮説1について

- 低学年では、入学当初ほとんどの児童が地声で元気よく歌っていたが、1年生の終わり頃には、きれいな声で歌おうという気持ちが高まり、音程も正確に取り、歌唱できるようになった。また、歌詞に合う身体表現を工夫し、楽しく生き生きと歌唱することができた。
- 中学年では、ほとんどの児童が、地声ではなく、きれいな響きのある声で歌唱できるようになった。また、グループごとに自分たちで曲想にふさわしい歌い方の工夫（強弱や声の出し方）し、生き生きと歌唱表現にとりくめるようになった。
- 高学年では、中学年で学んだ表現の工夫を生かし、更に旋律の重なり方や歌詞の内容、曲の特徴を生かした表現の工夫を考え、2部合唱にとりくむことができた。また、お互いのグループの表現の工夫の良さに気づくことができ、全体の合唱表現に生かすことができた。

【資料7】 【資料8】

- 低学年では、身体表現を行うことで、歌唱表現がおろそかになってしまいがちである。歌詞を覚えしっかり歌えるようになってから、身体表現の工夫をさせたい。

- 中学年・高学年では、グループでの合唱練習の際に、協力し合い、上手に進められるように、練習の手順の確認やリーダーの養成が必要である。

仮説2について

- 音楽科で培った歌唱表現を生かし、総合的な学習との関連を図り、校内行事や市内、郡市の音楽会で発表したり、「まちづくり事業」として、老人ホームへの慰問を行い、お年寄りの方々に喜んでいただいたり、幼稚園や保育所の園児達と音楽で交流したりすることで、仲間どうしや聴いてくださる方々と心と心がつながり、連帯感や達成感、感動を得ることができた。また、郷土を愛する気持ちや合唱表現の意欲が更に高まった。
- 市の行事（勝浦魅力市）、市内音楽発表会や郡市音楽発表会、千葉県音楽フェスティバルで演奏し、たくさんの方々に喜んでいただくことができた。そして、卒業式にはこれまでの学習・体験を踏まえた集大成として、思いを込め卒業式歌「いのちの歌」「今日の日をありがとう」を歌うことができた。

【主な参考文献】

- ① 『小学校学習指導要領』 文部科学省
- ② 『小学校学習指導要領解説』音楽編 教育芸術社
- ③ 『小学校の音楽授業』実践指導大系 示人社
- ④ 『SONARE』音楽科教育実践講座 株式会社ニチブン
- ⑤ 『子どもが輝く歌の授業』 真鍋なな子 音楽之友社

【研究協力者】（順不動）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| ・ 岩見 泰代（大多喜町立大多喜小学校） | ・ 桑門 麻希子（御宿町立御宿中学校） |
| ・ 岩瀬 美幸（勝浦市立豊浜小学校） | ・ 佐久間 徳美（いすみ市立東海小学校） |
| ・ 寺中 諒（いすみ市立古沢小学校） | ・ 元吉 秀行（勝浦市立勝浦中学校） |
| ・ 尾川 千恵子（勝浦市立総野小学校） | ・ 石井 裕子（勝浦市立勝浦中学校） |
| ・ 末吉 浩佳（勝浦市立郁文小学校） | ・ 長野 郁子（勝浦市立上野小学校） |
| ・ 丸 紋佳（勝浦市立勝浦小学校） | ・ 磯野 弥純（勝浦市立興津小学校） |
| ・ 井上 洋子（勝浦市立勝浦小学校） | |



資料



音楽の授業で指導に自信がない領域

【資料1】

・歌唱指導 14人 ・器楽指導 4人 ・音楽づくり 8人 ・鑑賞指導 4人

(勝浦市小学校7校の先生方に調査)

歌唱指導における教師の悩み

【低学年】

○音をしっかりとってあげることができない。

(ピアノが弾けないので、CDに頼ってしまう。)

○きれいな歌声、正しい音程をつくる指導はどうしたらよいか。

○低学年は、きたない声(怒鳴り声)になってしまう。

○集団で歌唱するときに、はにかしいとか、逆にきちんと歌っている児童をバカにするような態度をとる児童がいる。集団を同じ方向に向けさせるテクニックが知りたい。

○音がとれない児童の指導はどうしたらよいか。

(メンタル面を考えると効果的な指導ができない。)

○音がはずれていることに気づかない児童への指導はどうしたらよいか。

【中学年】

○響きのある、きれいな声を出すための効果的な発声指導について知りたい。

○2部合唱の指導について。

(相手の声を聞かないで声を張り上げてしまう。相手のパートにつられ、音程がとれない。)

【高学年】

○子ども達が、意欲的に歌うためにはどうしたらよいか。

○歌うことの楽しさを味わわせるためには、どのような指導をすればよいか。

○口を開けて歌わない男子児童をどうしたら楽しく歌わせることができるか。

○高学年男子の歌唱への関心・意欲をどう高め、持続させていくか。

(卒業式に向けて歌ってほしいのだが、音楽は大嫌いだと答える男子児童が多い。どうしたら興味を持たせることができるか。)

○変声期の男子児童への指導はどのようにしたらよいか。

○音楽の時間が減り、継続して指導することができない。

○人数が少ないので、斉唱はできても合唱をすることができにくい。

【資料5】 H28 今月の歌 年間計画

月	今月の歌	めあて (パート等)
4	☆校歌 (斉唱)	◇校歌をしっかりと覚えましょう。
5	☆野に咲く花のように p 117	◇心と声を合わせ歌いましょう。
6	☆友だちはいいもんだ (2部合唱) p 105	◇ほのぼのと、やさしく、気持ちを込めて歌いましょう。 ・主旋律→1, 2, 3, 4年 ・副旋律→5, 6年
7	☆スマイルアゲイン p 82	◇美しい響きのある声で、歌いましょう。
9	☆ふるさと p 125	◇やわらかい声で、気持ちを込めて歌いましょう。 〔♪ 若潮祭 全体合唱曲〕
10	☆ビリーブ (2部合唱) p 124	◇美しい響きのある声で歌いましょう。 ・主旋律→1, 2, 3, 4年 ・副旋律→5, 6年
11	☆もみじ (2部合唱) p 21	◇お互いに聴き合い、楽しく2部合唱しましょう。
12	☆クリスマスソング あわてんぼうのサンタクロース (低学年) p 23 きよしこの夜【英語版】 (高学年) 楽譜配布	◇楽しくクリスマスソングを歌いましょう。
1	☆この星に生まれて (2部合唱) p 70	◇卒業式に向け、しっかり練習し、音程正しく美しい声で歌いましょう。 ・主旋律→1, 2, 3, 4年 ・副旋律→5, 6年 〔♪ 卒業式 全体合唱曲〕
2	☆ありがとう さようなら p 151	◇感謝の気持ちを込めて歌いましょう 〔♪ 送る会 全体合唱曲〕
3	☆式歌練習 在校生 この星に生まれて 校歌 君が代 卒業生	◇卒業式に向け、美しい声で、気持ちをこめて歌いましょう。

1 題材名 ようすをおもいうかべよう

教材名 「おどるこねこ」 アンダソン作曲 (鑑賞)

「ひのまる」 文部省唱歌/高野辰之作詞/岡野貞一作曲 (歌唱)

「はるなつあきふゆ」 三浦真理作詞・作曲(歌唱)

【学習指導要領との関わり】

A表現 (1) 歌唱イ、ウ

B鑑賞 ア、ウ

【共通事項】

ア (ア) 音色、速度、旋律、強弱、拍の流れ

(イ) 反復

2 題材について

(1) 題材観

本題材では、楽曲の気分を感じ取りながら、想像豊かに聴いたり思いをもって表現したりすること、歌詞の表す様子や気持ちを想像して、楽曲の気分合った表現を工夫して歌うことをねらいとしている。

児童はこれまでに、歌ったり、体を動かしたりしながら、拍の流れやリズム、音程に対する感覚を感じ取る活動をしてきた。そして、友だちと一緒に歌ったり、体を動かしたりする楽しさを感じながら、音楽に対する興味関心を高めてきた。ここでは、そうした学習経験を踏まえ、歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら、楽曲の気分や語感に合った表現を工夫して歌う学習を進め、豊かな表現力・感性を育てるようにし、2年生の題材「6. ようすをおもいうかべよう」の学習へとつなげていきたい。

教材曲「おどるこねこ」は、こねこたちがおどっている様子を思い浮かべながら、自由に体を動かしたり、猫の鳴き声をまねしたりして、楽曲全体の気分を楽しむようにさせたい。そして、曲の進行に伴い、猫たちの踊りがどのように変化していくのかを想像しながら聴けるようにしたい。

「ひのまる」は、文部省唱歌として広く知られている曲である。日本の国旗がどこに飾られているかや、オリンピックの他にどんな時に見かけるかを質問したり、国民の祝日に飾る習慣があることに触れたりして、「ひのまる」の曲に関心をもって歌うようにさせたい。この曲では、同じリズムが繰り返されているため、旋律のまとまりを感じながら歌うことができる。また、旋律はド～ラの6音でつくられているため、音域の狭い児童の指導にも生かすことができるので、旋律のまとまりを意識して、のびのびと歌うようにさせたい。

「はるなつあきふゆ」は、短い詩ではあるが、児童にわかりやすい言葉で四季が表現されている。色や形、動きなど、様子を思い浮かべやすい言葉が多いため、歌詞の内容から歌い方の工夫へとつなげていかせたい。「ゆれる」「ふわり」「おおきな」「ごぶんと」など、一つ一つの言葉の発音に気を付けながら歌詞を読んだり、歌に合わせて体を動かしたりすることで、言葉のもつ語感を感じ取り、どんな様子を表現しているのかを想像して表情豊かに歌うようにさせたい。

(2) 児童の実態と考察 (男子12人 女子12人 計24人)

本学級の児童は、音楽が好きな児童が多い。歌唱や楽器の演奏については、興味を持ち積極的にとりくんでいる。

歌唱では、4月当初は正しい音程で歌っている児童は数名で、ほとんどが地声で歌っていた。そこで、毎朝の「今月の歌」は、「やさしい声で。」「曲をよく聴いて音をしっかりと伸ばして。」などと助言してから歌うようにし、少しずつきれいな歌声を意識するようになってきた。また、毎月、教えに来ている5年生の歌声を聞いて、きれいな声で歌おうという気持ちで歌うようになってきた。そこで、ここでは、はる・なつ・あき・ふゆの4つのグループごとに、歌詞の表すそれぞれの場面の様子を思い浮かべて体全体を使った表現の工夫を考えたい。そして、グループでの練習を通して、友だちの声を聴いて、自分の歌う声をみんなに合わせて歌うことの楽しさを味

わわせたい。

また、鑑賞については、ほぼ全員が音楽を聴くことを好んでいる。4月当初は、曲を聴くとい
い気持ち・楽しいという程度の感想だったが、楽しいリズムで歌いたくなってくる・わくわくし
て踊りたくなるなど曲想に関する言語が増え、体全体で楽しんでいることがわかる。

3 題材の目標

- 歌詞の表す様子や気持ちを想像して、楽曲の気分に合った表現を工夫して歌う。
【音楽表現の創意工夫】
- 楽曲の気分を感じ取りながら、想像豊かに聴いたり、思いをもって表現したりする。
【音楽表現の技能】
- 楽曲の楽しさや演奏のよさに気づいて聴くことができる。
【鑑賞の能力】

4 題材の指導計画（8時間扱い）

次	時	学習内容〔関連する共通事項ア〕	評価規準〔評価方法〕
1 お ど る こ ね こ	1	・猫の様子を思い浮かべながら、 楽曲全体の気分を楽しむ。 〔音色・旋律〕	【関・意】想像したことや感じ取ったことを言葉や体 を使って表すなどして、楽曲や演奏の楽し さに気づいて聴く学習に進んで取り組もう としている。 〔行動観察・発言内容〕
	2	・場面の様子を思い浮かべて、楽 曲の気分の変化を感じ取って聴 く。 〔音色・旋律・反復〕	【鑑】想像したことや感じ取ったことを言葉で表すな どして、楽曲の楽しさや演奏のよさに気づいて 聴いている。 〔行動観察・発言内容〕
2 ひ の ま る	3	・旋律の特徴を感じ取って歌う。 〔旋律〕	【関】歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら歌う学 習に進んで取り組もうとしている。 〔行動観察・演奏聴取〕
	4	・旋律や拍の流れに気を付けて、 のびのびとした声で歌う 〔旋律・拍の流れ〕	【技】旋律のまとまりや拍の流れを感じ取りながら、 正しい音程やリズムで歌っている。 〔演奏聴取〕
3 は る な つ あ き ふ ゆ	5	・歌詞の表す様子や気持ちを想像 しながら歌い、表現の仕方の工 夫をする。 （前時） 〔旋律・拍の流れ〕	【創】歌詞の表す様子や気持ちを想像して、発音や表 現を工夫し、どのように歌うかについて思いを もっている。 〔発言内容・表情観察・演奏聴取〕
	6	・歌詞の表す様子や気持ちに合う 表現の仕方を工夫し、表情豊か に歌う。 （本時） 〔速度・強弱〕	【技】歌詞の表す様子や気持ちに合った表現で歌って いる。 〔演奏聴取〕

5 前時の指導（5/6）

（1）目標

- ・歌詞の表す様子や気持ちを想像して、発音や表現を工夫し、どのように歌うかについて思い
をもっている。〔発言内容・表情観察・演奏聴取〕

（2）本時の重点

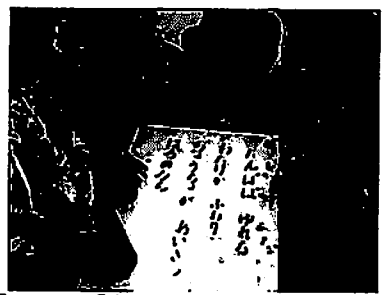
1番から4番までの歌詞の内容を読み取り、歌詞を生かした歌い方の工夫について考え、自分
の思いを持たせたい。そして、それぞれのグループ（はる・なつ・あき・ふゆ）ごとに、自分た
ちのグループの表現方法について話し合い、自分たちのグループで考えた表現の工夫を生かしな
がら歌唱練習をさせたい。

そこで、次の2つの手だてを講じる。

○拡大歌詞（児童によるイラスト入り）に表現（歌唱・身体）の工夫を記入する。

○2つの教室（音楽室・多目的室）にわかれ、みんなで話し合い、歌唱練習（表現の工夫）をする。

（3）展開（5／6）

学習活動と内容	時配 形態	指導（○）と評価（＊）
1 既習曲を歌い、学習の雰囲気作りをする。 ・「どんぐりさんのおうち」を歌う。 ・今月の歌「スマイルアゲイン」を歌う 2 学習課題を把握する。 「はるなつあきふゆ」の歌い方の工夫を考えよう。 3 「はるなつあきふゆ」を全体で歌う。  4 4つのグループに分かれ歌唱表現の工夫を話し合う。 ・4つの季節の絵やオノマトペや様子を表す言葉から身体表現や歌唱表現の工夫（強弱・速度）の工夫をする。 ・はるグループ ・なつグループ ・あきグループ ・ふゆグループ  5 4つのグループごとにそれぞれの工夫を生かし、練習をする。 ・自分たちのグループで考えた表現の工夫を生かし、練習をする。 6 全員で「はるなつあきふゆ」を歌い、本時のまとめをする。	5分 一斉 3分 一斉 7分 一斉 10分 グループ 5分 グループ 5分 一斉	○のびのびと歌わせることにより、児童の気分をほぐし、スムーズに活動に入っていけるような雰囲気をつくる。 ○姿勢・口の形・声・顔の表情などの発声フォームを確認し、できている子をほめて全体にも広げるようにする。 ○本時はグループごとに表現の工夫を考え、はる・なつ・あき・ふゆの各グループごとに練習をすることを伝え、学習に興味・関心を持たせるようにする。 ○拡大歌詞に書かれている言葉を手掛かりに、自分のイメージをもって歌えるように声掛けをする。  ○自分の考えを発表し合い、グループごとに拡大歌詞に歌い方の工夫を書くようにする。  ○「はる」「なつ」グループは音楽室、「あき」「ふゆ」グループは多目的室に分かれて練習し、次時への意欲・関心を持たせるようにする。 ＊歌詞の表す様子や気持ちを想像して、発音や表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。 （発言内容・表情観察・演奏聴取） ○今日の学習（グループ練習）の感想を出し合い、次時の意欲を持たせる。

(1) 目標

- 【音楽表現の技能】

1 番から 4 番までの歌詞の内容の違いや、旋律の特徴を生かした歌い方の工夫をして、表情豊かに自分の思いを持って歌わせたい。

そこで、次の2つの手だてを講じる。

○4つのグループでの工夫を生かし、全体で歌い合わせる。

学習活動と内容	時配 形態	指導 (○) と評価 (*)
1 既習曲を歌い、学習の雰囲気作りをする。 ・「どんぐりさんのおうち」を歌う。 ・今月の歌「スマイルアゲイン」を歌う。	5分 一斉	○のびのびと歌わせることにより、児童の気分をほぐし、スムーズに活動に入っていけるような雰囲気をつくる。 ○発声フォームを確認し、できている子をほめて全体にも広がるようにする。
2 学習課題を把握する。 「はるなつあきふゆ」の歌い方の工夫を発表し合おう。 ・「はるなつあきふゆ」を全体で歌う	3分 一斉	○本時は4つのグループの歌の工夫を聴き合うことを話し、学習に興味・関心を持たせるようにする。 ○きれいな声で、音程正しく歌えるようにさせる。
 3 4つのグループに分かれ練習をする。 ・はるグループ ・なつグループ ・あきグループ ・ふゆグループ	12分 グループ	○前時に考えた表現の工夫（拡大歌詞）を確認し合い、みんなで協力し合い練習するようにする。
 4 4つのグループの歌を聴き合う。 ・表現の工夫を説明する。 ・工夫を生かし、「はるなつあきふゆ」を歌う。	12分 一斉	 ○グループごとにどんな工夫をしたのかを説明して発表させる。

- ・各グループの歌を聴き、感想を発表し合う。

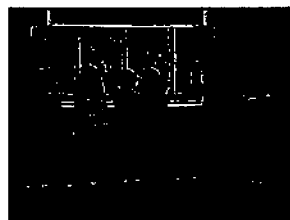
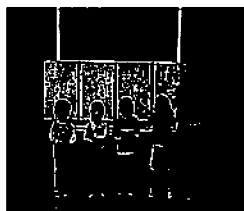


- 5 4つのグループの歌を通して「はるな
つあきふゆ」を歌う。

- 6 全員で「はるなつあきふゆ」を歌い、
本時のまとめをする。
・4つのグループの表現の工夫を生かして歌う。



○友だちの表現の工夫のよさを見つけたり、自分たちの表現の工夫と比べたりしながら聴かせる。



- 8分
一齊

○表現のよさを言葉で表すことが難しい児童には、オノマトペや様子を表す言葉に着目させたりまねをしたりするようにさせる。

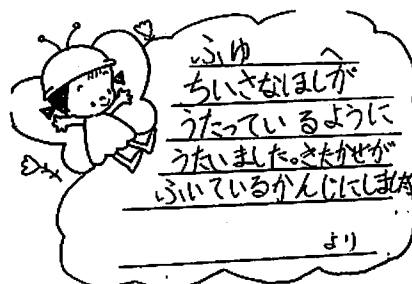
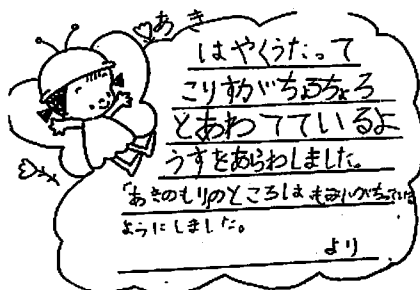
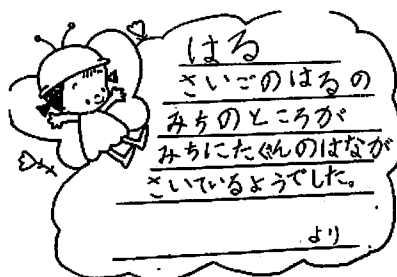
- ・はる 「ふわり」 「ゆれる」
- ・なつ 「おおきな」 「ざぶんと」
- ・あき 「ちょろり」 「いそいで」
- ・ふゆ 「ちいさな」 「きらきら」

*歌詞の表す様子や気持ちに合った表現で歌っている。

(演奏聴取)

- 5分
一畜

○全員で歌うことで、歌うことの楽しさを
味わいながら歌えるように場の設定をする。



1. 題材名 せんりつのとくちょうをかんじとろう

教材名 「あの雲のように」 芙龍明子作詞/作曲者不明/飯沼信義作曲 (歌唱)

「メヌエット」 ベートーベン作曲(鑑賞)

「山のポルカ」 チェコ民謡/岡部栄彦編曲(器楽)

「ふじ山」 文部省唱歌/巖谷小波作詞

【学習指導要領との関わり】

A表現 (1) 歌唱ア、イ、ウ、エ (2) 器楽ア、イ、ウ

B鑑賞 イ、ウ

【共通事項】

ア (ア) 音色、リズム、旋律、音の重なり、拍の流れ、フレーズ

(イ) 反復、変化、

イ 4分の3拍子、タイ

2 題材について

(1) 題材観

本題材では、旋律の特徴を感じ取りながら、曲想とその変化を感じ取って聴いたり、楽曲を聴いて感じ取ったことを言葉で表したりする活動を通して、楽曲の特徴やよさに気づくことをねらいとしている。また、旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現を工夫しながら、思いや意図を持って歌ったり演奏したりすることもねらいとしている。

ここでは、音楽を特徴づけている要素の一つである旋律に着目し、特徴を感じ取ったり、その特徴によって生み出される曲想をとらえたりしながら、表現と鑑賞の活動を進めていきたい。そして、自分の思いや意図を持って表現する能力を伸ばしていきたいと思う。低学年から育ててきた音楽に対する感性を高めながら、より具体的に旋律の上がり下がりやリズムに着目して曲想を感じ取り、それにふさわしい表情豊かな表現の仕方の工夫をさせていきたいと考える。

教材曲「あの雲のように」は、無理なく柔らかい声を出すことのできる音域で作られており、歌いながら美しい声の響きを感じ取りやすい。発声を意識させ、ゆったりとした3拍子の曲想を感じ取って表現するように学習を進めていきたい。

「メヌエット」は、主な旋律が一つの楽器(バイオリン)で演奏されているため、旋律の動きに着目しやすい曲である。また、滑らかな音の動きを美しく奏でるアの旋律と、軽やかではずむようなリズムを持つイの旋律の対比により、旋律の特徴の違いや、曲想の変化を感じ取りやすい曲である。音楽表現の面白さや演奏のよさを感じ取らせたい。

「山のポルカ」は、日本でもよく知られたチェコ民謡である。8分音符中心の軽やかなリズムをもつアの旋律と、4分音符と2分音符による滑らかなイの旋律の対比により、旋律の特徴の違いがわかりやすく、構成も感じ取りやすい。アの旋律は2年生で歌や鍵盤楽器の演奏で学習した経験があるため、階名唱にも取り組みやすい。個々の学習では、リコーダーで旋律の特徴にあった奏法で演奏させたい。

「ふじ山」は、富士山の雄大な姿を表す歌詞が旋律の動きにも表れている。歌詞の表す情景を想像しながら曲想を感じ取り、のびのびと歌わせたい。又、旋律のまとまりや抑揚、曲の山をとらえやすく、上行、下行する旋律の特徴を富士山の姿に重ね合わせると、強弱を工夫しながら自然と歌い上げることができる曲である。

なお本題材の学習は、高学年での「楽器の特徴や音色の違い、旋律と旋律、旋律と伴奏が重なり合う響きを味わって聴いたり、演奏したりすることや、楽器の音色や音が組み合わさる響き、音楽の仕組みを生かして、音楽をつくったり演奏したりする学習」へと発展する。

(2) 児童の実態と考察(男子8人 女子14人 計22人)

本学級の児童は、音楽が好きな児童が多い。歌唱や楽器の演奏については、興味を持ち積極的にとりくんでいる。しかし、読譜についてはやや抵抗を持っている児童も多い。ほとんどの児童は、楽譜に音階を書かなくては演奏できない。音階を書く数を減らすなど、少しずつ楽譜に慣れるようにしている。

歌唱では、情景を思い浮かべながら正しい音程でのびのびと歌うことができる児童もいるが、数人は音程を正しく取れずにいる。また、自分たちで曲想にふさわしい歌唱表現の工夫をすることは苦手である。そこで、ここでは、グループごとに歌詞の内容や旋律の特徴などを生み出

す曲想にふさわしい表現の工夫を考え練習し、お互いの歌唱を聴き合う活動を通して、お互いの歌唱表現の良さに気づき、全体の歌唱表現に生かしていけるようにしたい。

また、鑑賞については、音楽を聴くことは好んでいるが、感じたことを自分の言葉で表現することには、苦手意識を持っている児童も多く見られる。一人ひとりの思いや意図を言葉で表すことが目的ではなく、豊かな音楽活動をするための手段として言語活動を積極的に取り入れていきたい。

3 題材の目標

○旋律の特徴を感じ取りながら、曲想とその変化を感じ取って聴いたり、楽曲を聴いて感じ取ったりしたことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気づくことができる。

【音楽への関心・意欲・態度】

○旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするか自分の考えや意図を持つことができる。

【音楽表現の創意工夫】

○旋律の特徴を生かして、曲想にふさわしい表現を工夫しながら、思いや意図を持って歌ったり演奏したりすることができる。

【音楽表現の技能】

○楽曲の特徴や演奏のよさに気づいて聴くことができる。

【鑑賞の能力】

4 題材の指導計画（9時間扱い）

次	時	学習内容〔関連する共通事項ア〕	評価規準〔評価方法〕
1 あ の 雲 の よ う に	1	・旋律の音の上がり下がりを感じながら歌う。 〔旋律・拍の流れ〕 ・主な旋律の音の上がり下がりを感じながら、曲想に合う歌い方で歌う。 〔旋律、フレーズ〕	【関・意】旋律の特徴が生み出す曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図を持って歌ったり演奏したりしている。 〔演奏観察・発言内容〕
	2	・旋律の特徴を感じ取って聴く。 〔旋律・変化〕 ・旋律の音の上がり下がりやリズムに気をつけて聴く。 〔旋律・リズム〕	【鑑】旋律の音の上がり下がりやリズムが生み出す曲想の違いに気をつけて聴いている。 〔発言内容・ワークシート〕
	3	・バイオリンの音色や楽曲全体を味わって聴く。 〔音色・旋律〕	【鑑】楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取り、想像したことや感じたことをことばであらわすなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気づいて聴いている。 〔ワークシート・発言内容・行動観察〕
3 山 の ポ ル カ	4	・旋律の特徴や楽曲の構成を感じ取り、アの旋律を演奏する。 〔旋律・反復〕	【技】範奏を聴いたりハ長調の楽譜を見たりして、リコーダーを演奏している。 〔演奏聴取〕
	5	・旋律やリズムの特徴を聴き取り、運指や音色に気をつけて演奏の仕方を工夫する。 〔リズム・旋律〕	【創】旋律やリズムの特徴を聴き取り、それらのちがいをと感じ取って、楽器の演奏の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図を持っている。 〔発言内容・ワークシート・演奏聴取〕
	6	・旋律の特徴の違いや曲のまとまりを感じ取りながら演奏する。 〔旋律・音の重なり・反復〕	【技】アとイの旋律の特徴やその違いを生かして、リコーダーを演奏している。 〔演奏聴取〕

4 ふ じ 山	7	・曲想をつかんで歌う。 〔旋律〕	【関】 歌詞の内容や、旋律の特徴などが生み出さず曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図を持って歌う学習に進んでとりくもうとしている。 〔発言内容・行動観察〕
	8 前 時	・旋律の音の上がり下がり気をつけて曲の山を感じながら、曲想にふさわしい歌い方を工夫する。 〔旋律・フレーズ〕	【創】 旋律の特徴を聴き取り、旋律とリズムの関わりや曲の山を感じ取って、表現の仕方を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや意図を持っている。 〔ワークシート・発言内容・行動観察〕
	9 本 時	・旋律の音の上がり下がり気をつけて曲の山を感じながら、曲想にふさわしい歌い方で歌う。 〔旋律・フレーズ〕	【技】 曲の山を生かし、歌詞の内容、旋律の特徴などが生み出す曲想にふさわしい表現で歌っている。 〔演奏聴取〕

5 前時の指導（8/9）

（1）目標

- ・旋律の音の上がり下がり気をつけて曲の山を感じながら、曲想にふさわしい歌い方を工夫する。
【音楽表現の創意工夫】

（2）本時の重点

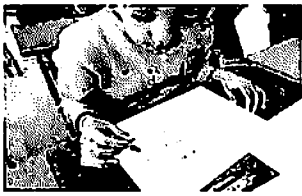
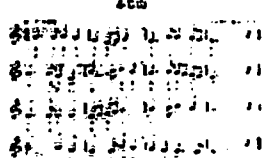
1番と2番の歌詞の内容を読み取り、音程に気をつけながら、音の上がり下がり意識して歌う工夫について、自分の思いを持たせたい。そして、グループごとに、自分たちのグループの表現方法について話し合い、自分たちのグループで考えた表現方法の工夫を生かしながら、歌唱練習をさせたい。

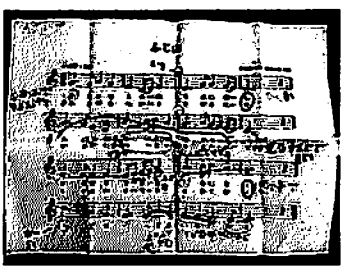
そこで、次の2つの手だてを講じる。

○ワークシートや拡大譜に歌唱表現の工夫を記入する。

○2つの教室（音楽室・多目的室）にわかれ、みんなで話し合い、歌唱練習（表現の工夫）をする。

（3）展開（8/9）

学習活動と内容	時配 形態	指導（○）と評価（＊）
1 既習曲を歌い、学習の雰囲気作りをする。 ・「あの雲のように」を歌う。	3分 一斉	○のびのびと歌わせることにより、児童の気分をほぐし、スムーズに活動に入っていけるような雰囲気をつくる。 ○姿勢・口の形・声・顔の表情などの発声フォームを確認し、できている子を褒めて全体にも広げるようにする。
2 学習課題を把握する。 「ふじ山」の歌い方の工夫を考えよう	5分 一斉	○本時は2つのAとBのグループごとに歌唱表現の工夫を考え、グループごとに練習することを伝え、学習に興味・関心を持たせるようにする。
3 「ふじ山」を階名で歌う。		
4 個人で歌唱表現の工夫を考える。 	10分 一斉	○歌唱表現の工夫をワークシート記入し、自分の考えを持たせるようにする。 

5 2つのグループに分かれ歌唱表現の工夫を話し合う。 ・旋律の音の上がり下がりに気をつけて曲想を感じ取る。 ・強弱や声の出し方を工夫した歌い方。 	15分 個 グループ	○ワークシートをもとに自分の考えを發表し合い、グループごとに歌唱表現の工夫を拡大譜に書き入れるようにする。 
6 グループごとにそれぞれの工夫を生かし、練習をする。 ・自分たちのグループで考えた表現の工夫を生かし、練習をする。 	7分 一斉	*旋律の音の上がり下がりに気をつけて曲の山を感じながら曲想にふさわしい歌い方で練習できたか。 (ワークシート・発言の内容・練習の様子)
7 全員で「ふじ山」を歌い、本時のまとめをする。 ・今日の学習の感想を出し合い、次時の意欲をもたせたい。	5分 一斉	○全員で歌い、次時への意欲関心を持たせるようにする。

5 本時の指導 (9/9)

(1) 目標

- ・旋律の音の上がり下がりに気をつけて曲の山を感じながら、曲想にふさわしい歌い方で歌ことができる。

【音楽表現の技能】

(2) 本時の重点

1番と2番の歌詞の内容の違いや、高音の響かせ方の工夫や旋律の特徴を生かした歌い方の工夫をして、表情豊かに自分の思いを持って歌わせたい。

本時ではグループの歌を聴き合うことにより、お互いのグループの表現の工夫を聴き取らせたい。そして、それぞれの良さを取り入れ、曲全体に生かしていきたい。

そこで、次の2つの手だてを講じる。

○ワークシートや拡大版に記入した歌唱表現の工夫を發表し、お互いの歌唱を聞きあい、表現の工夫を聞きトラせる。

○お互いのグループの表現の良さを聴き合い、全体の歌唱表現に生かすようにする。

(3) 展開 (9/9)

学習活動と内容	時配 形態	指導 (○) と評価 (*)
1 既習曲を歌い、学習の雰囲気作りをする。 ・「あの雲のように」を歌う。	3分 一斉	○のびのびと歌わせることにより、児童の気分をほぐし、スムーズに活動に入っていけるような雰囲気を作る。

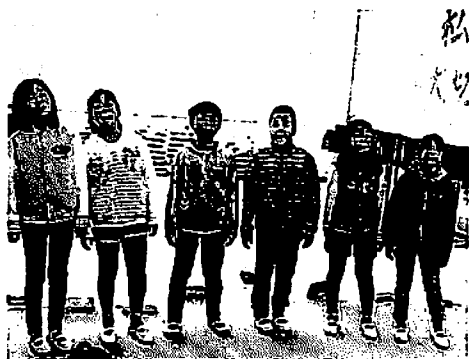
2 学習課題を把握する。

「ふじ山」の歌い方の工夫を発表し合おう。

- ・「ふじ山」を全体で歌う。

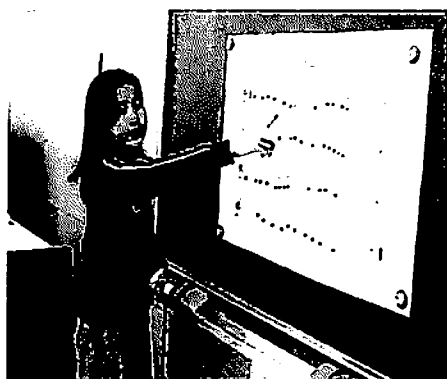
3 グループに分かれ練習をする。

- ・Aグループ・Bグループ



4 グループの歌を聴き合う。

- ・歌唱表現の工夫を説明する。
- ・工夫を生かし、「ふじ山」を歌う。
- ・グループの歌を聴き、感想を発表し合う。



5 全員で「ふじ山」を歌い、本時のまとめをする。

- ・グループの表現の工夫を生かして歌う。



5分
一斉

17分
グループ

15分
一斉

5分
一斉

○本時はグループの歌唱の工夫を聴きあうことを話し、学習に興味・関心を持たせるようにする。

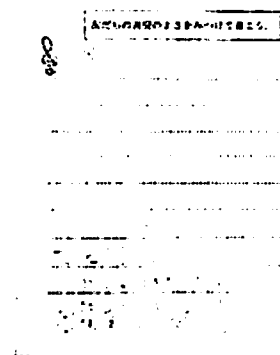
○きれいな声で、音程正しく歌うようにさせる。

○前時に考えた歌唱表現の工夫(ワークシート・拡大譜)を確認し合い協力して練習できるようにする。



○グループごとの思いや意図、工夫した根拠などを説明して発表させる。

○友達の表現の工夫のよさを見つたり、自分たちの表現の工夫と比べたりしながら聴かせる。



○音楽表現のよさを言葉で表すことが難しい児童のために、音楽を表すいろいろな言葉の表を手がかりにするようにさせる。

*曲の山を生かし、歌詞の内容、旋律の特徴などが生み出す曲想にふさわしい表現で歌うことができたか。

(発言の内容・演奏聴取)

○全員で歌うことにより、のびやかな響きを味わう。

1 題材名 いろいろな音のひびきを味わおう

教材名 「小さな約束」 佐井孝彰作曲 (器楽)

「いつでもあの海は」 佐田和夫作詞/長谷部匡俊作曲 (歌唱)

「リボンのおどり」 美龍明子日本語詞/メキシコ民謡/原由多加編曲(器楽・音楽づくり)

「アイネクライネナハトムジーク第 1 楽章」 モーツァルト作曲(鑑賞)

【学習指導要領との関わり】

A 表現 (1) 歌唱イ、ウ、エ (2) 器楽ア、イ、ウ、エ (3) 音楽づくりア、イ

B 鑑賞 イ、ウ

【共通事項】

ア (ア) 音色、リズム、旋律、強弱、音の重なり、調、拍の流れ、フレーズ

(イ) 反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係

イ アクセント、へ音記号

2 題材について

(1) 題材観

本題材では、楽器の特徴や音色の違い、旋律と旋律、旋律と伴奏が重なり合う響きを味わって聴いたり、演奏したりすることや、楽器の音色や音が組み合わさる響き、音楽の仕組みを生かして、音楽をつくったり演奏したりする態度を養うことをねらいとしている。

児童はこれまでに、拍の流れにのってリズムを感じ取ったり、旋律の特徴やいろいろな音の響きや旋律の重なりを感じとったりする活動をしてきた。ここでは、そうした学習経験を踏まえ、歌声やいろいろな楽器の音が重なり合うそれぞれの響きを味わい、それを生かして演奏の仕方を工夫する活動を中心に学習を進めたい。中学年までに学習してきたいろいろな楽器の音色や音が重なる響きの美しさ、さらに、旋律の重なり方の違いが生み出す曲想を感じ取りながら、音の重なり合いに焦点を当てて学習を進めていきたい。

教材曲「小さな約束」は、リコーダー演奏を通して、イ短調を学習するために作曲されたオリジナル曲であり、イ短調の音階の音がすべて使われているため、短調の音階の学習に適している。ハ長調の音階と比較し、長調と短調の音階の感じの違いに気づくようにしたい。

「いつでもあの海は」は、2 部合唱を通して旋律の重なり方を学習するために作曲されたオリジナル曲であり、歌詞は、海への思いを歌い上げている。子ども達にとっては海は身近な存在であり、思いを込めて表現することができるであろう。気持ちの高まりを強弱で表現することにより、歌い方の工夫をさせていきたい。また、ア、イ、ウの旋律の重なり方の特徴を生かした歌い方の工夫をして、表情豊かに自分達の思いを持って歌わせたい。

「リボンのおどり」の原曲はメキシコ民謡「ラ パンパ」である。楽器の選択やパートの組み合わせ、反復の回数など自由に構成できるよう、打楽器を含めた 7 つのパートに編曲されている。パートの重ね方、速度、強弱、終わり方など様々な工夫をさせていきたい。

「アイネクライネナハトムジーク第 1 楽章」は、冒頭で示される旋律はたいへん有名で、聴いたことのある児童も多く、弦楽合奏の楽曲を身近に感じる教材として最適である。強弱や曲想の変化も容易にとらえて聴くことができる。ト長調の明るい響きと、弦楽器のやさしい音色を味わわせたい。

なお本題材の学習は、中学校での「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌ったり、演奏したり、音楽を形作っている要素や構造と曲想の関わりを感じ取って聴き、言葉で説明するなどして音楽のよさや美しさを味わう学習」へと発展する。

(2) 児童の実態と考察 (男子 11 人 女子 11 人 計 22 人)

本学級の児童は、音楽が好きな児童が多い。歌唱や楽器の演奏については、興味を持ち積極的に取り組んでいる。しかし、読譜についてはやや抵抗を持っている児童も多い。ほとんどの児童

は、楽譜に音階を書かなくては演奏できない。音階を書く数を減らすなど、少しずつ楽譜に慣れるようにしている。

合唱では、ほとんどの児童が自分のパートを音程正しく歌唱することが精一杯であり、他のパートを聴いたり、それぞれのパートの役割を意識して合唱したりしていないのが実態である。また、自分達で曲想を生かした合唱表現の工夫をするのは初めてである。そこで、ここでは、2つのグループごとに、歌詞の内容や旋律の重なり方の違いを生かした表現の工夫を考え、練習し、お互いの合唱を聴き合う活動を通して、お互いの合唱表現の良さに気づき、全体の合唱表現に生かしていけるようにしたい。

また、鑑賞については、音楽を聴くことは好んでいるが、感じたことを自分の言葉で表現することには、苦手意識を持っている児童も多く見られる。一人一人の思いや意図を言葉で表すことが目的ではなく、豊かな音楽活動をするための手段として言語活動を積極的に取り入れていきたい。

3 題材の目標

○旋律の重なり合う響きに興味・関心を持ち、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽を聴いたりする学習に意欲的に取り組もうとしている。

【音楽への関心・意欲・態度】

○互いの声や楽器の音の重なりを聴き取り、全体の響きに変化していく面白さを感じ取りながら重ね方を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするか自分の考えや意図を持つことができる。

【音楽表現の創意工夫】

○歌詞の内容や旋律の重なり方の違いを生かした表現で歌ったり、パートの重なり方による全体の響きの変化を生かして演奏したり、リズムアンサンブルをつくったりすることができる。

【音楽表現の技能】

○楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴くことができる。

【鑑賞の能力】

4 題材の指導計画（8時間扱い）

次時	学習内容〔関連する共通事項ア〕	評価規準〔評価方法〕
1 小さな約束	・イ短調の響きを感じ取って、主な旋律を演奏する。 〔旋律・音階・調〕 ・旋律の特徴に気づいて、副次的な旋律を演奏する。〔旋律〕	【関・意】イ短調の楽譜を見て演奏する学習に主体的にとりくもうとしている。〔演奏観察〕
	・短調の響きを感じ取りながら、二部合奏する。 〔音色・旋律・強弱・音の重なり・調〕	【技】イ短調の響きを感じ取り、互いの音を聞き合いながら、自分の音を調和させて演奏している。〔演奏観察・演奏聴取〕
2 いつでもあの海は	・曲の感じをつかみ、フレーズを生かしながら主旋律を歌う。 〔旋律・フレーズ〕 ・旋律の重なり方の違いを感じ取って副次的な旋律を歌う。 〔旋律・音の重なり〕	【関】旋律の重なり合う響きに興味・関心を持って歌う学習に意欲的にとりくもうとしている。〔演奏観察・発言内容〕
	・旋律の重なり方や歌詞の内容・楽曲の特徴を生かして表現を工夫し二部合唱の練習をする。 〔強弱・旋律・音の重なり〕	【創】互いの声や旋律の重なりを聴き取り、全体の響きに変化していく面白さを感じ取りながら、重ね方を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや意図を持っている。 〔ワークシート・発言内容・演奏観察〕

	5 本時	・二つのグループの合唱表現の工夫を発表し合い、全体の合唱に生かす。 [強弱・旋律・音の重なり]	【技】歌詞の内容や旋律の重なり方の違いを生かした表現で歌っている。 [付箋・発言内容・演奏聴取]
3 リボンの おどり	6	・リズムカルの曲想をつかんで歌う。 [リズム・音の重なり] ・各パートの旋律の特徴をつかんで演奏する。 [リズム・旋律・拍の流れ]	【関】いろいろな音が重なり合う響きやリズムの面白さに興味・関心を持ち、歌ったり、演奏したりする学習に意欲的にとりくもうとしている。 [演奏観察]
	7	・重なり合う響きの変化の面白さを生かして、表現の工夫をする [音色・音の重なり・音楽の縦と横の関係]	【創】互いの楽器の音の重なりを聴き取り、全体の響きに変化していく面白さを感じ取りながらパートの重なり方を工夫し、どのように演奏するか自分の考えや意図を持っている。 [ワークシート・発言の内容・演奏聴取]
4 アイネクライネ ナハトムジーク	8	・弦楽器の音色や響きを感じ取って「アイネクライネナハトムジーク第一楽章」を聴く。 [音色・旋律] ・旋律の重なり方に気をつけて聴く。 [音色・旋律・音の重なり]	【関】弦楽器の音色や旋律の重なり方に興味・関心を持ち、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く学習に意欲的にとりくんでいる。 [ワークシート・発言内容・表情観察] 【鑑】弦楽器の音色や旋律の重なり方の変化から感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。 [ワークシート・発言内容・表情観察]

5 前時の指導（4/8時）

（1）目標

- ・旋律の重なり方や歌詞の内容・楽曲の特徴を生かして表現を工夫し二部合唱の練習をする。
[音楽表現の創意工夫]

（2）本時の重点

1番と2番の歌詞の内容の違いや、ア、イ、ウの旋律の重なり方の特徴を生かした歌い方の工夫について、自分の思いを持たせたい。そして、それぞれのグループ（A・B）ごとに、自分たちのグループの表現方法について話し合う。

リーダーを中心に、自分たちのグループで考えた合唱表現の工夫を生かしながら合唱練習をする。

そこで、次の2つの手だてを講じる。

○ワークシートや拡大譜に合唱表現の工夫を記入する。

○2つの教室（音楽室・多目的室）にわかれ、パートリーダーを中心に合唱練習のステップ表を参考にしながら、練習する。

（3）展開（4/8）

学習活動と内容	時配 形態	指導（○）と評価（＊）
1 既習曲を歌い、学習の雰囲気作りをする。 ・「ゆかいに歩けば」を歌う。 ・今月の歌「スマイルアゲイン」を歌う	5分 一斉	○のびのびと歌わせることにより、児童の気分をほぐし、スムーズに活動に入っていけるような雰囲気をつくる。 ○姿勢・口の形・声・顔の表情などの発声フォームを確認し、できている子をほめて全体にも広げるようにする。

2 学習課題を把握する。

「いつでもあの海は」の合唱表現の工夫を考えパート練習をしよう。

- ・「いつでもあの海は」を全体で二部合を唱する。
- 3 旋律の重なり方や歌詞の内容・楽曲の特徴を生かした合唱表現の工夫を考える。
- ・1番と2番の歌詞の内容の違い
- ・ア、イ、ウの旋律の重なり方の特徴を生かした歌い方



- 4 二つのグループに分かれ合唱表現の工夫を話し合う。
- ・Aグループ
 - ・Bグループ



- 5 二つのグループごとにそれぞれの工夫を生かし、二部合唱練習をする。
- ・リーダーを中心に自分たちのグループの表現の工夫を生かし、二部合唱練習をする。



- 6 全員で「いつでもあの海は」二部合唱し、本時のまとめをする。
- ・次時は、各グループごとに聴き合い、全体の合唱をまとめることを伝え、意欲を持たせる。

3分
一斉

7分
個

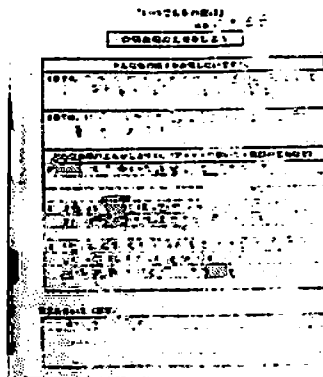
10分
グループ

10分
グループ

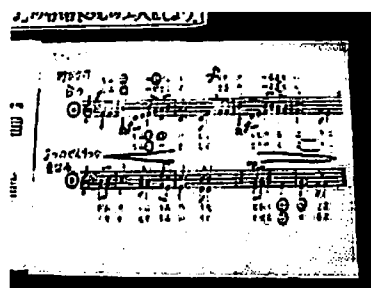
10分
一斉

- 本時はグループごとに合唱表現の工夫を考え、A・B各グループごとに合唱練習をすることを伝え、学習に興味・関心を持たせるようにする。
- お互いのパートを聴き合いながら、音程を正しく歌えるようにさせる。

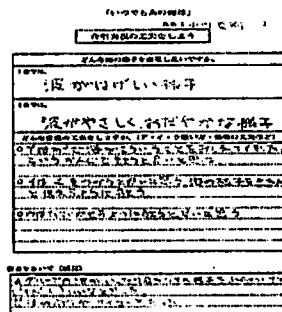
- 合唱表現の工夫をワークシートに記入し、自分の考えを持つようにさせる。



- ワークシートをもとに自分の考えを発表し合い、グループごとに合唱表現の工夫を拡大譜に書くようにする。



- *旋律の重なり方や歌詞の内容・楽曲の特徴を生かして表現を工夫し二部合唱の練習をする。
(ワークシート・発言の内容・練習の様子)



- 全員で合唱し、次時への意欲・関心を持たせるようにする。

5 本時の指導 (5/8)

(1) 目標

- ・旋律の重なり方や歌詞の内容・楽曲の特徴を生かして二部合唱することができる。

【音楽表現の技能】

(2) 本時の重点

1番と2番の歌詞の内容の違いや、ア、イ、ウの旋律の重なり方の特徴を生かした歌い方の工夫をして、表情豊かに自分の思いを持って歌わせたい。

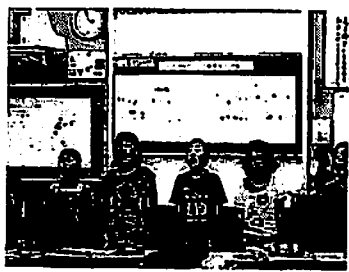
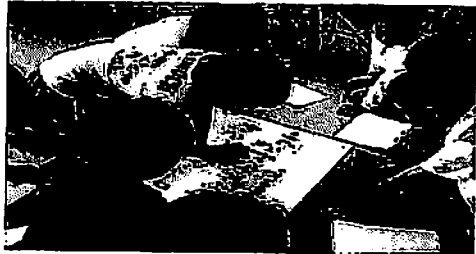
本時では2つのグループの合唱を聴き合うことにより、お互いのグループの表現の工夫を聴き取らせたい。そして、それぞれの良さを取り入れ、全体の合唱に生かしていきたい。

そこで、次の2つの手だてを講じる。

○ワークシートや拡大譜に記入した合唱表現の工夫を発表し、お互いの合唱を聴き合い、表現の工夫を聴き取らせる。

○お互いのグループの表現の良さを聴き合い、全体の合唱表現に生かすようにする。

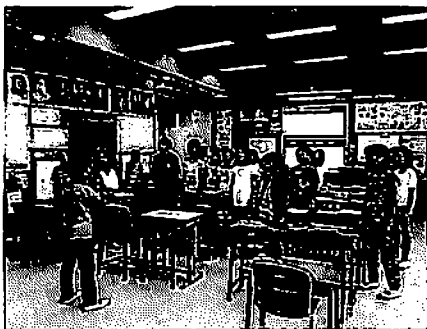
(3) 展開 (5/8)

学習活動と内容	時配 形態	指導 (○) と評価 (*)
1 既習曲を歌い、学習の雰囲気作りをする。 ・「ゆかいに歩けば」を歌う。 ・今月の歌「スマイルアゲイン」を歌う。	5分 一斉	○のびのびと歌わせることにより、児童の気分をほぐし、スムーズに活動に入っていけるような雰囲気をつくる。 ○姿勢・口の形・声・顔の表情などの発声 ○フォームを確認し、できている子をほめて全体にも広げるようにする。
2 学習課題を把握する。 「いつでもあの海は」の合唱表現の工夫をしよう。 ・「いつでもあの海は」を全体で二部合唱する。 	3分 一斉	○本時は2つのグループの合唱の工夫を聴き合うことを話し、学習に興味・関心を持たせるようにする。 ○お互いのパートを聴き合いながら、音程正しく歌えるようににさせる。
3 二つのグループに分かれ合唱練習をする。 ・ Aグループ ・ Bグループ 	15分 グループ	○前時に考えた合唱表現の工夫（ワークシート・拡大譜）を確認し合い、パートリーダーを中心に協力し合い練習するようにする。 
4 二つのグループの二部合唱を聴き合う。 ・ 合唱表現の工夫を説明する。 ・ 工夫を生かし、「いつでもあの海は」を二部合唱する。	15分 一斉	○グループごとの思いや意図、工夫した根拠などを説明して発表させる。

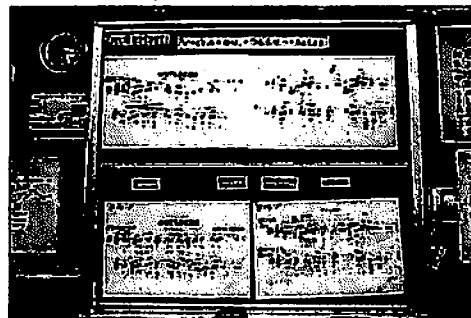
・合唱を聴き、感想を発表し合う。



- 5 全員で「いつでもあの海は」二部合唱し、本時のまとめをする。
・二つのグループの表現の工夫を生かし二部合唱する。



○友達表現の工夫のよさを見つけたり、自分たちの表現の工夫と比べたりしながら聴かせる。



7分
一斉

○音楽表現のよさを言葉で表すことが難しい児童のために、音楽を表すいろいろな言葉の表を手がかりにするようにさせる。

*歌詞の内容や旋律の重なり方の違いを生かした表現で歌うことができたか。

(発言の内容・演奏聴取)

○全員で合唱することにより、さらに豊かな響き合いを味わう。

「いつでもあの海は」

合唱表現の工夫をしよう

1 A グループ

ソプラノ	
アルト	

どんな曲の感じを表現したいですか。
1番は、波がはげしくたから、オーシャンドラムを使って、元気に少し強く歌いたいです。
2番は、波がやさしくたから、やさしく、ささやくように歌いたいです。
どんな表現の工夫をしますか。(ア・イ・ウの歌い方・楽器の工夫など)
○アは、クレッシェンドや、デクレッシェンドに気をつけて歌います。
○イは、ソプラノ(サフォルテ)で波がきたかのように響き、アルト(メゾフォルテ)で波がかわってくようにやさしく歌います。
○ウは、クレッシェンドとデクレッシェンドをつけてソプラノとアルトがはるかに響くように歌います。

「いつでもあの海は」

合唱表現の工夫をしよう

1 B グループ

ソプラノ	
アルト	

どんな曲の感じを表現したいですか。
1番では、波がはげしくたから、オーシャンドラムを使って、元気に歌おう。
2番では、波がやさしくたから、やさしく、ささやくように歌おう。
どんな表現の工夫をしますか。(ア・イ・ウの歌い方・楽器の工夫など)
○アは、オーシャンドラムを使って、波がきたかのように響き、アルト(メゾフォルテ)で波がかわってくようにやさしく歌います。
○イは、ソプラノとアルトの両方で、波がきたかのように響き、アルト(メゾフォルテ)で波がかわってくようにやさしく歌います。
○ウは、波がきたかのように響き、アルト(メゾフォルテ)で波がかわってくようにやさしく歌います。



老人ホームに行って。
おじいさんやおばあさんといっしょに
ふるさとを歌いました。
わたしの手をにきりありがとうと返って
くれました。わたしたちの歌で元気になって
くれてうれしかったです。

6年2組



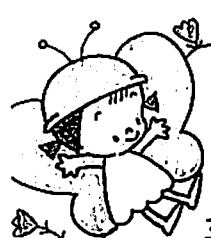
老人ホームに伺って。
お年よりの方々はわたしたちの
音楽劇「海の命」を聞いて涙を
流して喜んでくださいました。それを見て
とてもうれしい気持ちになりました。

6年1組



幼稚園生と交流して
音楽げきは感動を伝えられてよかったです。
遊んだときはおにごっこをしたり、
ボールやすなど遊んだりいろいろな事を
しました。小学校に入學してくるのが楽しみです。

5年1組



保育園生と交流してへ
ようち園でやった時に学んだことを
生かして、1番いい発表をすること
ができました。わかしお祭ではほんと
いいものを見せられるようにかんはり
たいです。

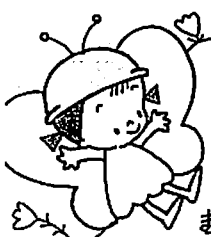
5年1組

より



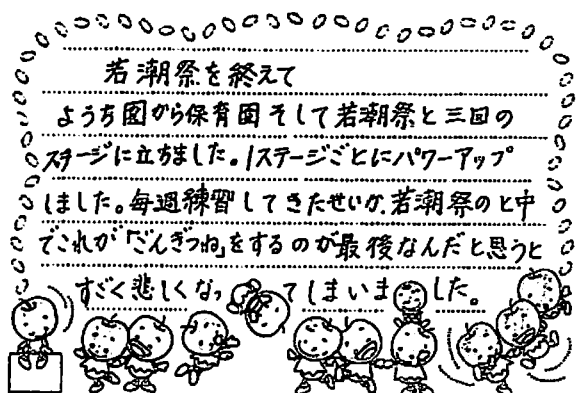
とてもきょうげい体験が
できました。いつも海を守って
くれている灯台に感謝して
歌いました。この機会を通して、
なににごとも本気でやることのすばらしさや
勝浦の海を大切にすることの大切さを学びました。

6年1組

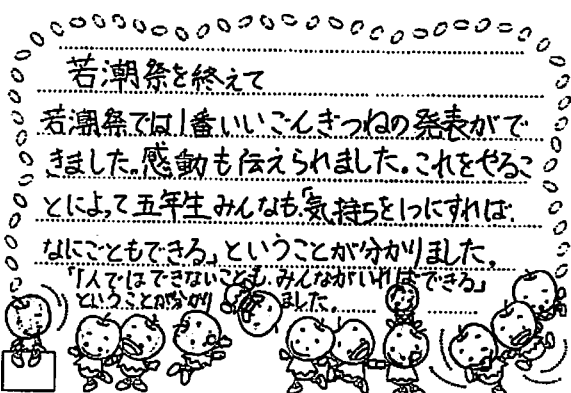


灯台100周年記念式で
私たちが歌ってみんなが笑顔で見ていて
くれたのでとてもうれしかったです。
また、歌の魅力や感謝を込めて歌った
ことでみんなを笑顔にすることができました。

6年1組



若潮祭を終えて
ようち園から保育園そして若潮祭と三回の
ステージに立ちました。ステージごとにパワーアップ
しました。毎週練習してきたせいかな。若潮祭のヒ中
でこれがどんきゅめをするのが最後なんだと思うと
すごく悲しくなりました。

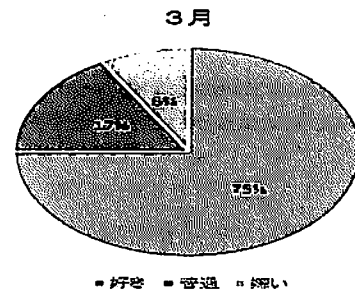
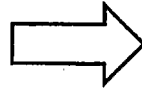
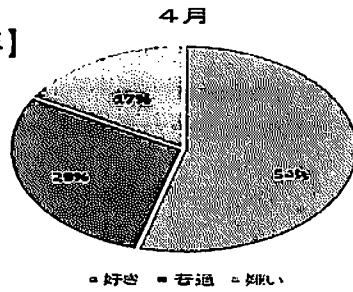


若潮祭を終えて
若潮祭では1番いいどんきゅめの発表がで
きました。感動も伝えられました。これをやるこ
とによって五年生みんなも気持ちとついにすれば
なにこともできる、ということが分かりました。
「人ではできないことも、みんながいていはいはできる」
ということが分かりました。

児童の意識調査
「音楽の授業は好きか。」

【資料7】

【1年】



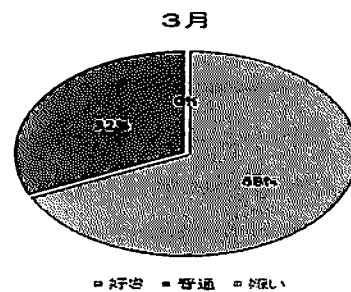
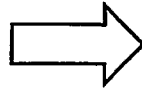
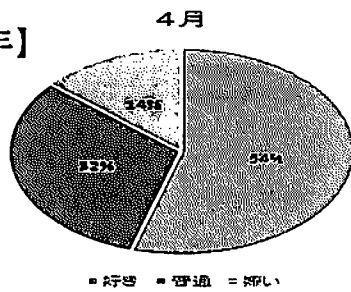
【理由（4月）】

- (好き)・みんなで歌うのが楽しい。
・楽器が好き。
(嫌い)・はずかしい。

【理由（3月）】

- (好き)・楽しい。(みんなで歌う・振り付けを付ける・発表すること)
(嫌い)・はずかしい。
・楽器が苦手

【3年】



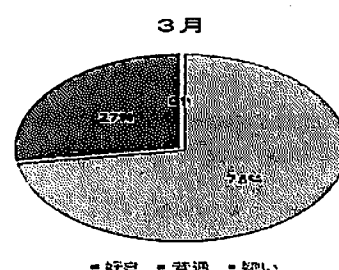
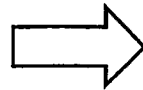
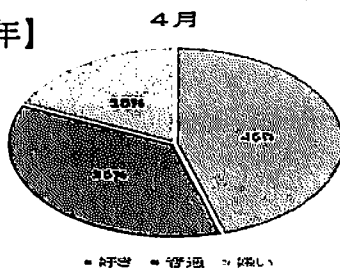
【理由（4月）】

- (好き)・みんなで歌うのが楽しい。
・楽器が好き。
(嫌い)・はずかしい。

【理由（3月）】

- (好き)・楽しい。(みんなで歌う・歌い方を工夫する・発表すること)

【5年】



【理由（4月）】

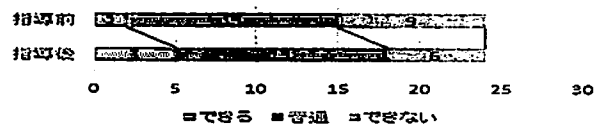
- (好き)・みんなで歌うのが楽しい。
・楽器が好き。
(嫌い)・はずかしい。
・高い声が出ない。
・音がとれない。

【理由（3月）】

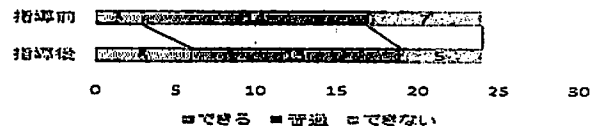
- (好き)・合唱が楽しい。
・みんなに喜んでもらえる。
・きれいにハモった時楽しい。

【1年】

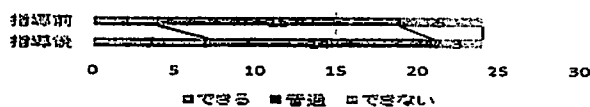
1. 音程正しく歌唱できる(1年)



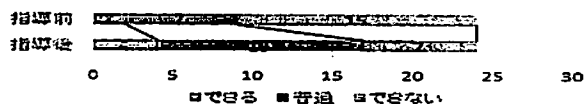
2. 正確なリズムで歌唱できる(1年)



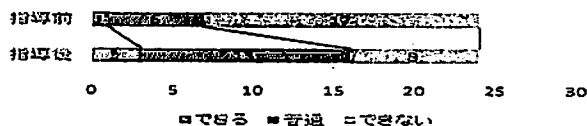
3. 口をしっかりと開け言葉をはっきり歌唱できる(1年)



4. 地声ではなく、きれいな響きで歌唱できる(1年)



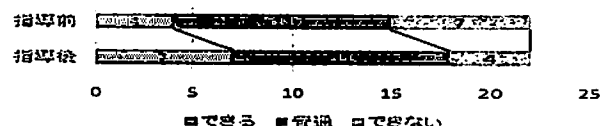
5. 感情豊かに歌唱できる(1年)



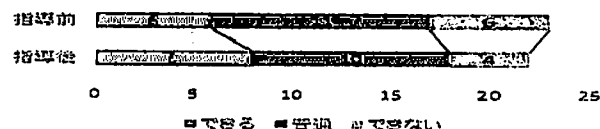
【3年】

【資料8】

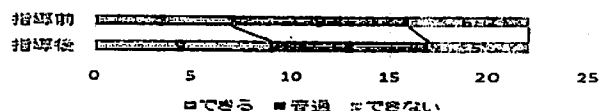
1. 音程正しく歌唱できる(3年)



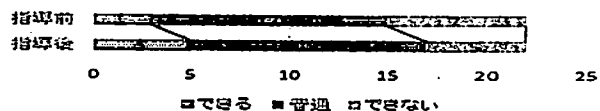
2. 正確なリズムで歌唱できる(3年)



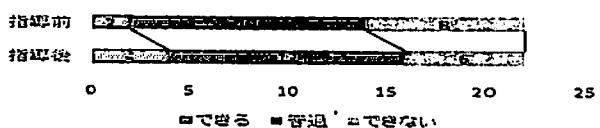
3. 口をしっかりと開け言葉をはっきり歌唱できる(3年)



4. 地声ではなく、きれいな響きで歌唱できる(3年)

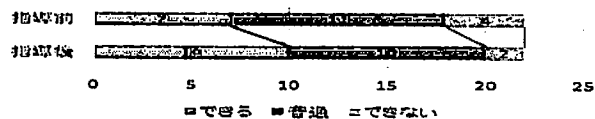


5. 感情豊かに歌唱できる(3年)

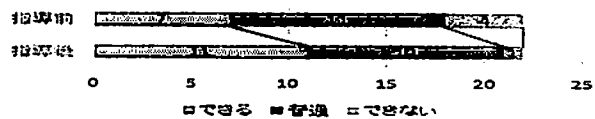


【5年】

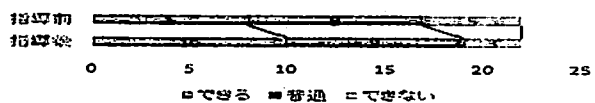
1. 音程正しく歌唱できる(5年)



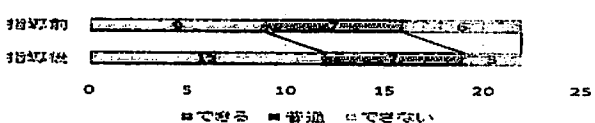
2. 正確なリズムで歌唱できる(5年)



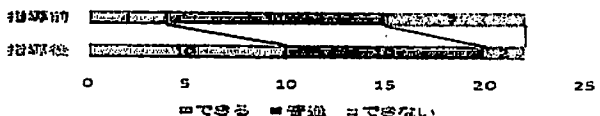
3. 口をしっかりと開け言葉をはっきり歌唱できる(5年)



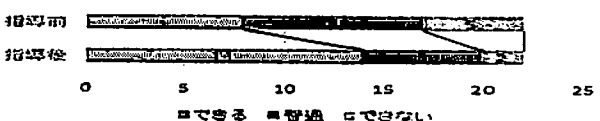
4. 頭声的な発声で歌唱できる(5年)



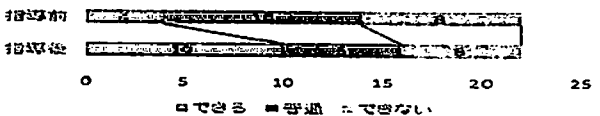
5. 感情豊かに歌唱できる(5年)



6. 他のパートにつられず歌唱できる(5年)



7. 腹式呼吸で声量豊かに歌唱できる(5年)



8. 曲想をつけ歌唱できる(強弱など)(5年)

